

横須賀市自然・人文博物館 & 登戸研究所資料館

コラボ企画 開催中！

現在開催中の横須賀市自然・人文博物館とのコラボ企画について本号では特集します。

コラボに至った経緯

横須賀市自然・人文博物館の付属施設である「馬堀自然教育園」(横須賀市馬堀)は、今年開園60周年を迎えます。馬堀自然教育園の敷地は、かつて陸軍重砲兵学校の弾薬庫でした。園内には当時の火薬庫と思われる倉庫跡や、神社、防爆壁が残されており、見学することができます。

旧日本陸軍の遺構を保存し、一般に公開している博物館施設は、県内では当館と横須賀市自然・人文博物館のみです。当館も2019年度末に開館10周年をむかえることから、これを機に横須賀と登戸のコラボ企画を実施し、県内に残る戦争遺跡、そして地域の歴史について関心を持っていただける企画を開催する運びとなりました。



馬堀教育園内に残る陸軍重砲兵学校時代の倉庫
(2019年当館撮影)

どんなコラボ企画なの？

コラボ企画のテーマは「横須賀と登戸を繋ぐヒミツを解き明かせ」です。神奈川県北部に位置する登戸と、南部に位置する横須賀は、一見すると関係は薄いように見えます。

しかし「登戸研究所」をキーワードにこの2カ所を調べていくと、ある「ヒミツの繋がり」が浮かび上がってきます。このヒミツを解き明かして頂くため、2館同時にスタンプラリーを開催中です。スタンプ用紙とともに、それぞれの館でヒミツを解くヒントとなる「鍵

カード」も配布していますので、ぜひヒミツを解き明かしにご来場ください。

今回の企画の目玉は、横須賀と登戸をつなぐ最大のヒミツ「GPSO」

です。これは、米海軍横須賀基地内に、1950～1960年半ばまで存在した極秘機関であり、正式名称を「Government



GPSO で働いていた人たち
※右から2人目が山本憲蔵

Printing Supplies Office = 政府印刷補給所」といいます。1950年、米国の要請に応え元登戸研究所第三科(偽札製造関係)の人たちが主となり設立されました。朝鮮戦争が勃発し、対共産圏との緊張が高まる中、彼らは横須賀で米国の秘密戦を支えていました。

この活動について初めてご紹介したのが2015年の企画展です。それから4年間、当館では調査を続け、資料を収集してきました。その成果を横須賀市自然・人文博物館本館にてコラボ展示しています。貴重な資料10点を初公開。その他、新たにわかった研究の成果も展示しています。2019年11月4日(月・祝)まで開催中ですので、どうぞお見逃しなく！

コラボ展示を観た後は、同館付属の馬堀自然教育園にもぜひお立ち寄りください。陸軍重砲兵学校の遺構だけではなく、三浦半島の豊かな自然が保存されているので、歴史と自然を感じる散策にぴったりです。また、帰りには「ヴェルニー公園」(JR線横須賀駅が京急線汐入駅)より、GPSO員が活動していた米海軍横須賀基地を望むのもおすすめです。(2面に続く)

▶▶ 関連イベント情報は裏面4面へ

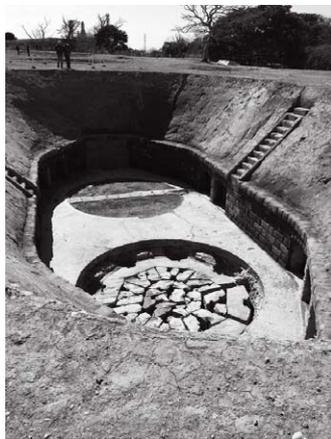
次回の企画展は・・・？

次回の企画展は、登戸出張所誕生と『雑書綴』をテーマに開催します。(詳細は3面下部参照)

今から80年前の1939(昭和14)年に、陸軍科学研究所登戸実験場は、登戸出張所と名称を変えました。これは、単なる呼称変更ではなく、それまでの電波兵器研究部門を第一科とし、新たに毒物・薬物・生物兵器等を開発する第二科と、中国の偽札等を製造する第三科が増設され、総合的な秘密戦研究所としての登戸研究所の誕生を意味しています。この特殊な研究機関に関する物的資料は1945年の敗戦に際して徹底的に焼却・破壊され、長らく全て処分されたと思われてきました。ところが、今から30年前の1989(平成元)年に、登戸研究所にタイピストとして勤めていた女性が登戸研究所の数百枚もの文書を持っていると名乗り出たのです。当時、十代の少女だった彼女が、なにゆえ登戸研究所の文書を持っていたのか、そして、そこには何が記されていたのか、『雑書綴』と名付けられた文書から登戸研究所の秘密に迫ります。

一方、当館では「戦争遺跡写真パネル展 一近郊の戦跡を訪ねて」を開催中です。

馬堀自然教育園に残る陸軍重砲兵学校の遺構の他、三浦半島や房総半島に残る本土決戦準備の跡、松代大本営や大久野島といった、これまで当館が調査を行ってきた戦争遺跡を約20点の写真パネルでご紹介します。



横須賀市内に残る千代ヶ崎砲台跡(2018年当館撮影)

今回ご紹介する遺跡のほとんどが、市民や行政の手によって保存・公開が進められているものですが、中には手つかずのまま、歴史から忘れ去られていこうとしている遺跡もあります。この展示を通じて、身近に残る戦争遺跡に関心を持っていただき、足を運ぶきっかけとなれば幸いです。

期間中、毎週土曜11時・13時には、解説会も実施いたしますのでぜひご来場ください!

第四回

渡辺先生か斯く語りき



少女が残した秘密『雑書綴』

資料館の非公式看板猫ふみふみちゃん(以下㊦)が、渡辺賢二先生(以下㊧)から、四半世紀以上にわたる調査の秘話を聞くコーナーです。

㊦「先生、次の企画展で『雑書綴』っていうのがとりあげられるでしょ。これ、女の子が残したって聞いたのだけれど、本当？」

㊧「ふみふみちゃん、よく知っていますねえ。本当です。15歳の時から終戦時まで5年間、登戸研究所で働いていた女性が持っていたものなんですよ」

㊦「どんなものなのかしら？」

㊧「彼女は、登戸研究所のタイピストだったんです。昔のタイプライターはとても高い技術が必要で、資格をとらないとできない難しい仕事だったんです。なので、自分がタイプした書類や、ミスタイプした書類を見本用にずっととっていたんですね」

㊦「でも、登戸研究所のものって秘密だから、外には絶対持ち出せなかったんでしょう？ どうして残ったのかしら」

㊧「ふみふみちゃんの言うとおりで、門では守衛さん

が従業員たちの荷物チェックを行い、登戸研究所のものは絶対に持ち出せないようにしていました。さらに終戦後は、登戸研究所では徹底した証拠隠滅作業を行い、ほぼ全ての資料が焼かれてしまいました。でもね、彼女は自分が5年間やってきたことを無かったことにするのは忍びないと思い、『雑書綴』を持ち帰ろうとしたんです」

㊦「守衛さんにはとめられなかったの?!」

㊧「一旦はとめられたのですが、彼女の思いを知った守衛さんは、研究所も終戦で解散したことだし、持ち帰ってもいいと許可したんですね」

㊦「そんなことってあるのね…。どんな内容が綴られていたのかしら」

㊧「それについてはまた次回お話ししましょうね」

(第四回 おわり) (担当: 塚本)

※今号はQ&Aのコーナーをお休みします。

■「登戸研究所と帝銀事件」展

大好評のうちに終了！

2018年度企画展「登戸研究所と帝銀事件」は、好評につき、会期を5月11日まで延長し、約5,000名の方にご来場いただきました。開館初年度に続く、大勢の方で連日にぎわい、改めてこの事件への関心の高さを感じました。特に熊井啓監督映画「帝銀事件 死刑囚」の上映会は、急きょ別会場を追加するほど大勢の方にご来場いただきました。



この企画展を通じ、帝銀事件の捜査記録には、登戸研究所をはじめとした旧日本陸軍の暗部が詳細に記録されていることがわかりました。今後も捜査記録を中心に調査・研究を継続し、帝銀事件が発生した1月

26日前後には、毎年帝銀事件をテーマにした企画を開催することとなりました。引き続き関心を持っていただければ幸いです。

■ ちよま あま 苧麻と亜麻が常設展に仲間入り

日本の紙と違い、中国の紙幣は苧麻や亜麻が使用されていました。苧麻は日本では縮などの織物に、亜麻はリネンとして利用されています。登戸研究所では中国の偽札をつくるため、これらをボロ布から選別して利用していました。

このたび寄贈していただいた苧麻と亜麻を、偽札の参考資料として展示することになりました。その展示解説シートを職場体験の稲田中学校2年生の3人が作ってくれましたので、展示とあわせてご覧ください。



資料館からのお知らせ

■ 見学会

無料、申込制、定員各回25名。
各日とも土曜日、13時から所要時間約2時間です。
10月5日・10月12日・11月9日・11月23日
*毎月1～2回開催。12月以降の開催日は決まり次第お知らせします。
電話・FAXかEメールでお申し込みください。
*メール申込は必ず本文中にメールアドレスを明記

■ 臨時休館・開館のお知らせ

- ・生明祭(学園祭11/2～4)会期中
11月2日(土)、3日(日) 開館
11月4日(月) 休館
- ・年末年始休館 12月26日(木)～1月7日(火)
- ・入試のため休館 1月18日(土)、2月5日(水)、
2月7日(金) *その他、臨時に休館する場合があります

2019年度企画展「少女が残した登戸研究所の記録—陸軍登戸出張所開設80年—」

11月20日(水)～3月28日(土)

■ 休館日:日～火曜,12月26日(木)～1月7日(火),
1月18日(土),2月5日(水),2月7日(金)

■ 講演会「少女が残した登戸研究所の記録

～『雑書綴』発見秘話』

日時:12月7日(土)13:00～14:30

講師:渡辺賢二(登戸研究所資料館展示専門委員)

会場:中央校舎6階メディアホール

予約不要。直接会場へお越しください。

■ 企画展展示解説会 11月30日(土),12月21日(土),
1月11日(土),2月29日(土),3月28日(土)

時間:各回13:00～14:00(予定)

解説:山田朗(当館館長・文学部教授)

定員:各回20名(事前予約制)

電話・FAXかEメールでお申し込みください。

※『雑書綴』原本は11月20日～12月26日,
1月11日,2月29日～3月28日のみ展示。

コラボ企画

開催中～ 11/3 (日)

*横須賀市自然・人文博物館は 11/4 (月) まで

横須賀市自然・人文博物館

●コラボ展示「横須賀にあった極秘機関 一陸軍登戸研究所と横須賀」

戦後、登戸研究所所員の一部は米海軍横須賀基地内の極秘機関で働いていました。歴史の裏でつながっていた横須賀と登戸。その実態にせまります。

●コラボ講演会「横須賀にあった極秘機関 GPSO 一陸軍登戸研究所と横須賀」

コラボ展で解明した極秘機関「GPSO」と登戸研究所の関係についてお話しします。

講師：山田朗（当館長・明治大学文学部教授）

日時：2019年11月16日（土）14時～16時

会場：横須賀市自然・人文博物館 講座室

定員：100名（当日先着順，無料）

●特別展示「おいでよ！まぼりの森 一馬堀自然教育園の60年とこれから」

横須賀の自然と歴史が残る馬堀自然教育園を紹介する特別展示です。

※会場は馬堀自然教育園ではなく、横須賀市自然・人文博物館です。

【横須賀市自然・人文博物館 アクセス】

横須賀市深田台 95 TEL 046-824-3688

京急 横須賀中央駅から徒歩 10分または

バス停「文化会館前」から徒歩 5分

開館時間：9時～17時

月曜閉館（祝日の場合は翌日）

登戸研究所資料館

●コラボ展示「近郊の戦跡を訪ねて」

旧日本陸軍重砲兵学校をはじめとする三浦半島の戦跡や当館がこれまで調査をおこなってきた戦跡を、写真パネルにてご紹介。

●解説会 戦跡の解説と調査時の裏話をお話します。

日時：期間中の毎週土曜日（10/19を除く）

11時・13時 ※所要時間 30分

参加方法：時間までに資料館受付前に集合。

●コラボ講演会

「近代建築史から登戸研究所を読み解く」

横須賀製鉄所など近代建築を専門に、先駆的な研究を行っている菊地氏を講師に招き、登戸研究所第二科毒物兵器研究棟（44号棟）と、生物化学兵器研究棟（現・資料館）の特徴を主にお話しします。当館初の試みとなる建築史の視点で登戸研究所に切り込むことで、新たな発見を皆さまにもたらしめます。

講師：菊地勝広氏（横須賀市自然・人文博物館学芸員）

日時：2019年10月19日（土）13～15時

会場：明大生田キャンパス第一校舎 2号館 200教室

定員：260名（当日先着順，無料）

2館横断スタンプラリーも開催中！

2つの館でスタンプを集めて、横須賀と登戸をつなぐ秘密を解き明かそう！2館を訪れた方には記念品をプレゼント。

2019年8月31日現在の累計来館者数は77,065名です

編集・発行：明治大学平和教育登戸研究所資料館

発行日：2019年9月20日

〒214-8571 神奈川県川崎市多摩区東三田 1-1-1

明治大学生田キャンパス

TEL/FAX：044-934-7993

E-mail：noborito@mics.meiji.ac.jp

URL：http://www.meiji.ac.jp/noborito/index.html

 https://twitter.com/meiji_noborito

 <https://www.facebook.com/Noboritoshiryokan>

「利用案内」

開館日：水曜日～土曜日（日・月・火 閉館）

開館時間：午前10時～午後4時

入館料：無料

●臨時に閉館する場合があります。最新情報は当館ウェブサイト・SNSなどでご確認ください。

●以下の場合には必ず事前に電話かメールでご予約をお願いします。

・10名以上の団体での見学（予約は1か月前まで）

＊団体で日曜日見学希望の場合は事前にご相談ください

・ガイドによる解説をご希望の場合

●ゼミ・クラス・クラブ単位での団体見学も承っております。

平和教育・歴史教育・科学教育の一助としてぜひご利用ください。